



発行：ボーイスカウト石川県連盟  
石川県金沢市平和町 1-3-1  
石川県平和町庁舎内  
発行責任者：野田 政弘  
編集責任者：宮東 剛文  
令和 4 年 7 月 31 日発行

## 年次総会

### ボーイスカウト石川県連盟 年次総会



令和4年5月22日、令和4年度年次総会が野々市市富奥防災コミュニティセンターにて開催されました。県内21ヶ団の団代表議員、県連盟役員54名が出席し、来賓として粟貴章野々市市長、ボーイスカウト振興石川県議会議員連盟より地元選出の徳野光春県議のご臨席をいただきました。開式後、馳浩知事が新連盟長に推戴されました。その後の令和4年度表彰式があり、引き続き会議へと会が進行しました。会議では第1号議案 令和3年度県連盟事業報告、第2号議案 令和3年度収支決算報告、第3号議案 令和4年度県連盟事業計画(案)審議、第4号議案

令和4年度事業予算(案)審議、第5号議案 第8回石川キャンポリー予算(案)審議、第6号議案 県連盟規約一部改正審議、第7号議案 県連盟役員の選出について審議され、いずれも賛成多数で承認されました。

\* 第8回石川キャンポリーは珠洲市を震源とする地震の影響を鑑みて次年度に延期となりました。

### ～令和4年度表彰～

#### <日本連盟>

かっこう章 林 典子

組織拡充顕彰優良団 Aランク

金沢第6団

金沢第11団

#### 隊褒章授

20年級 津幡 第1団ビーバー隊

25年級 津幡 第1団ベンチャー隊

野々市第1団ベンチャー隊

小松 第8団ベンチャー隊

30年級 川北 第1団ベンチャー隊

35年級 金沢 第1団ビーバー隊

金沢 第2団ローバー隊

金沢 第21団ビーバー隊

加賀 第3団ビーバー隊

50年級 金沢 第1団ローバー隊

金沢 第22団ボーイ隊

60年級 金沢 第1団ベンチャー隊

金沢 第6団ベンチャー隊

70年級 金沢 第10団カブ隊  
75年級 金沢 第1団ボーイ隊  
金沢 第2団ボーイ隊  
金沢 第6団ボーイ隊

#### 特別年功章

5年章 宮嶋三臣、久田 毅（津幡1）  
山下雄大、中村理恵（野々市1）  
10年章 矢田富郎、岩井彩子（津幡1）  
15年章 清水紀子（金沢11）  
勝泉茂伸、林 利治（津幡1）  
三國康代、升方良洋（野々市1）  
20年章 糸野いづみ（金沢11）

#### <石川県連盟>

##### 県連盟感謝盾

粟 貴章 野々市第1団 育成会長  
水野四郎 金沢第11団 副団委員長

##### 県連感謝章

宮 順一 金沢第6団 団委員長  
浜本茂樹 金沢第11団 育成会長

##### 県連特別有功章

糸野いづみ 金沢第11団 団委員

##### 県連有功章

向 清美 津幡第1団 VS副長  
谷本 誠 津幡第1団 団委員

##### 県連善行章

國原愛子 金沢第11団 BS隊  
坂田友理 金沢第11団 BS隊

齋藤 政裕・澤田 幸宏・中西 祐一・林 典子・  
東本 晃典・宮田 敏之・加藤 大学・島 清徳・  
島 時次・蔦原 平吉・本野 夏希・谷内 直

【監事】 福島 日出夫・杉本 雅幸

【名誉会議議員】 松田 章・中村 辰雄・内田 宏

【県コミッショナー】 稲葉豊

【副コミッショナー】 巻下浩之・山崎貞紀・  
浅川佳祐

【会員増強委員長】 蔦原 平吉

【副委員長】 清水 利男

【委員】 武藤芳明・上村洋・宮崎二三代・  
新川賢・林利治

【プログラム委員長】 中澤 利昭

【副委員長】 神山 誠一

【委員】 金井 義幸・高野 靖史

【教育開発委員長】 東本 晃典

【副委員長】 小島 武

【委員】 宮東 剛文・坂本 努・中澤 利昭・  
巻下 浩之

【広報委員長】 宮東 剛文

【副委員長】 中出 一

【委員】 林 正明・本川 啓二郎

【リスク・危機管理委員長】 中西 祐一

【副委員長】 稲葉 豊

【委員】 各常設委員長・県副コミッショナー

【事務局長】 高村 昌克

【次長】 堂山 純子



（年次総会にて県連盟表彰された方々）

#### ～ 県連盟役員 ～

令和4年、5年度の役員は以下のとおり

【連盟長】 馳 浩（知事）

【副連盟長】 泉谷 満寿裕（珠洲市長）、加藤 治樹

【理事長】 野田 政弘

【副理事長】 橋本良助・手井博史・高村昌克

【地区代表理事】 守山 保夫

【理事】 改田 陽子・片岡 由美子・木林 秀一・

## スカウトボイス原稿募集

スカウトボイスは、石川県連盟の動きと所属のスカウトの声を幅広くお届けする情報誌です。皆様からの、感動した、楽しかった、苦しかった、友情輪が広がった、等々のエピソードをお寄せください。手書きの原稿も受け付けています。スキャナー取り込みデータまたは原稿をデジカメで写してボーイスカウト石川県連盟事務局までお送りください。併せて面白い写真もお寄せください。

団の紹介ページも、充実させようと思っています。我こそはという意気込みのある団は写真を添えて投稿お願いいたします。



## 第203回ボーイスカウト講習会



令和4年6月12日(日)、キゴ山ふれあい研修センター青少年交流棟にて、第203回ボーイスカウト講習会が開催されました。ボーイスカウト講習会は、スカウト運動における指導者訓練の導入として広く一般の方々に、スカウト運動の内容を伝え、スカウト教育の原理と基本的な方法を正しく知っていただくことを目的として、毎年開催されています。今回、県内8ヶ団より22名の参加者が集まり、ボーイスカウト運動は「社会に役立つ青少年を育てる運動であること」や「成人の参加と支援が必要なこと」を理解し、「成人としての関わり方」を学びました。

講習会とはいえ、座学だけでなく、参加者自らが揃いのネッカチーフを身につけて、班集会やハイキングなどボーイスカウトの模擬体験、小グループに分かれてのグループ学習など、楽しく理解を深められるよう工夫されています。

まだボーイスカウト講習会を受講していない方(18歳以上)は是非とも次回のボーイスカウト講習会に参加をお願いします。

## BP Voice

『世界のすべての人の友』

スカウトは自分の周りにいる人だけの友だちではなく「世界のすべての人の友」だということを忘れてはいけません。友だち同士は戦いはしない。私たちは海を越えた隣国の人たちと友だちにな



り、相手も私たちに友情をもっていれば、戦争をする必要はないのだ。これこそ、将来の戦争を防ぎ、平和を永続させるための何よりの手段である。

戦争の原因の一つは、各国の人が個人的にはほとんど知り合っていないところへ、政府が戦争をするのが正しいことだと言って聞かせることにある。そうして戦って後になってからみんな後悔する。

もし、平和なときに仲のよい友だちになっていたら、互いに理解し合っていたら、決してけんかになるようなことはないだろう。

現在では、自動車や航空機のおかげで、旅行がずっと楽にできるようになり、ラジオによって距離もずっと近くなり、いろいろな国の人がお互いに親密に知りあえる機会が多くなった。

そのうえ、ボーイスカウトとガール・ガイド(ガール・スカウト)の運動も各国に広まっている。スカウトとして、私たちは世界中のいろいろな国を訪れ、どの国でも同じちかいとおきてによって行動し、同じスカウト活動をしている兄弟スカウトに会うことができる。すでに各国の数千のスカウトが、定期的に相互に訪問しあっている。これによって他国の様子を見るという楽しみも味わうのだが、互いに単なる外国人としてではなく、友だちとして知り合うということがもっとも有意義なことなのだ。

(スカウティング フォア ボーイズ第IX章より)



「スカウトボイス石川」編集責任者が「フィンランド Milu85 国際キャンプ」に参加した当時の写真。日本からは8名のスカウトと2名の指導者が参加しました。北欧特有の針葉樹林と苔に囲まれたキャンプサイトが今でも心に残っています。(1985年)

## 団の紹介ページ

### 金沢第1団

～仏に誓う入隊上進式～



1933年（昭和8年）大谷金沢健児団として創立以来、今年で89年を迎える金沢第1団は、真宗大谷派金沢別院（金沢東別院）を活動拠点として日々スカウト活動を行っています。谷内団委員長のもと、89年の歴史と伝統を継承しつつ、新たな事業にも取り組む「温故知新」の団です。

令和4年度も入隊上進式からスタートしました。各隊への入隊・上進には課題（関門）が用意され、スカウトにとっても、見守る保護者にとってもハラハラドキドキの試練です。見事に課題をパスした者は仏前にて「ちかい」あるいは「やくそく」をたてたて、晴れて隊の仲間となります。

最後に、ローバースカウトによるスカウト宣言、金沢第1団「団歌」、金沢第1団「エール（イエール）」で式は終了となります。

今年度は、昨年11月に行った団の体験会が子どもや保護者に気に入ってもらえたことから、多くのスカウトが金沢第1団の仲間入りをしました。団スタッフ一同、新しく入った仲間とともに楽しい活動ができるよう一丸となって取り組むことで団結しています。



（丸木橋を渡ってビーバー隊の仲間入り）

### 小松第3団



小松第3団は昭和21年より活動を始めました。一時は休団した時期もありましたが、平成7年にビーバー隊を設立しました。小松市内を活動拠点とし、ビーバー隊からベンチャー隊までのスカウトが元気に活動しています。

年3回のキャンプを軸に、地域の自然や歴史、文化にふれあえるプログラムなども実施しています。中高生のスカウトは、学校や地域のスポーツ部に所属し多忙なスケジュールを抱えていますが、スカウト活動との両立をめざしています。

しかし、団員の減少をおさえ新規団員の確保をどのように進めるかという課題があります。定期的に体験会を実施し、継続した新規団員の確保が必要だと感じています。そのためには、複数回の体験会の実施や、市のまつりである「どんどんまつり」にも積極的に参加し、市民の目にふれるよう活動をアピールしていくことが必要だと考えています。スカウトを増やしていけるように、保護者の協力を得ながら活動を盛り上げていきたいと思っています。

